

## 令和7年度八戸市総合教育会議 会議録

開催日時 令和7年11月22日(土) 午後3時

場 所 八戸市美術館 スタジオ

構成員	八戸市長	熊 谷 雄一
	教育委員会教育長	齋 藤 信哉
	教育委員会委員	西 山 康巳
	教育委員会委員	小 澤 直子
	教育委員会委員	久 保 千恵子
	教育委員会委員	福 井 武久

議題 八戸市における「中学校部活動の地域展開」の現状と今後の展望について

- (1) 八戸市における「中学校部活動の地域展開」の現状
- (2) 令和7年度教育委員会視察研修報告
- (3) 八戸市における「中学校部活動の地域展開」の今後の展望

## 開 会

(松橋 広美 次長兼教育総務課長 資料に基づき出席者紹介)

(熊谷 雄一 市長)

それでは、はじめに私から着座のままではございますが、御挨拶を申し上げます。

本日は御多用の中、総合教育会議に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。この総合教育会議は、八戸市の教育課題を共有し、課題の解決や地域の実情に応じた教育行政の推進について、教育委員会の皆様と議論を交わすことができる大変重要な場であると認識をいたしております。

本日は「八戸市における「中学校部活動の地域展開」の現状と今後の展望について」を議題としております。皆様におかれましては、忌憚のない御意見をよろしくお願ひをいたします。それでは早速、議事を進めてまいります。

初めに「八戸市における「中学校部活動の地域展開」の現状」について、事務局から説明をお願いいたします。

### 議題(1)八戸市における「中学校部活動の地域展開」の現状

(佐藤 学校教育課長 資料に基づき説明)

(資料に基づく説明の後、同美術館内で行われている地域クラブ活動を視察見学)

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございました。それでは、ただ今の説明や視察につきまして、御意見、御質問等ございませんでしょうか。自由に御意見、御質問をお願いいたします。はいどうぞ、福井委員。

(福井 武久 委員)

地域クラブ活動は国の実証事業で予算をいただいていると思いますが、実際にこの予算で十分足りているのでしょうか。

(事務局)

お答えいたします。十分に足りているとは言えないと認識しております。やはり様々な各種目を充実した内容で運営・展開をしていくためには、必要なものが様々あります。会場費のこととか、講師等への謝礼含め、保険料など様々な経費がかかりますので。十分ですかという御質問に対しては、十分ですという答えはできないと感じておるところです。以上です。

(福井 武久 委員)

ありがとうございました。多分足りてないだろうなと感じていました。これからはさらに充実していくかなければいけないなと思っております。

あと、もう1点ですけれども、先ほどの説明の中に出ていた流し踊りですか、すばらしいなと思います。今、若者の人材が祭りの継続などに対して非常に不安視されています。流し踊りの件は先ほど見ましたが、今後、祭りとか市のそういった文化活動のようなもの、また部活動に關係するかどうか分かりませんが、えんぶりとかいろいろあると思いますが、そういう活動も流し踊りと同様に地域展開に關係していくと考えていてよろしいでしょうか。

(事務局)

お答えいたします。この流し踊りの参加については、学校教育課の安田地域クラブ活動コーディネーター（以下、コーディネーター）が様々動いて準備をして、成果を発表するということになりました。せっかく練習して、成果を発表するということが子どもたちのモチベーションというか意欲を上げるためにも、練習した内容を実際に披露する場があるっていうことがとても大事なことだなと、今回私も見ていて感じました。具体的にどういう発表の場、行事に参加するかということはまだ検討中ですけれども、流し踊り以外の文化活動についても、是非練習した内容ですか、例えば作った作品でも展示とか発表するというふうな状況は、やはり子どもたちのためにも考えていかなきゃならないと思っております。以上です。

(熊谷 雄一 市長)

はい、ありがとうございます。他にございませんでしょうか。はい、西山委員。

(西山 康巳 委員)

これまで行ってきた合同部活動では、特に運動部、陸上競技などが非常に多くの生徒が集まっているという状況になっていますが、この参加人数に対する指導者などの課題とか問題点がないかというところが一つ。もう一つが、これから進められる八戸市地域クラブ活動に移行していくということになれば、この合同部活動の実施というはどういう扱いになってくるのかお伺いしたいと思います。

(事務局)

お答えいたします。まず、指導者に関してですが、合同部活動をスタートした時には、八戸学院大学の学生を活用させていただきまして、学生にどんどん来ていただいて、おかげで充実した練習をさせていただくことができました。クラブ活動になってからも、八戸学院大学の皆様を活用させていただくこともありますが、人数に合わせて「何人以内」というふうな規定を設けている自治体もあります。そうなると、それに見合う人数の指導者を大学生以外で確保できるのかどうかというふうな部分が、一つ課題ではあるかなというふうに感じております。

ちなみに来週末に、今度は地域クラブ活動がありますが、今度は一般の方を使って指導する予定ですけれども、ちょっと人数が今度は足りていない状況になっておりました。

また、合同部活動についてですが、この後は今の段階で地域クラブ活動に、県の実証事業として登録していないものに関しては、この後合同部活動という形で可能なものについては実施していく考えであります。以上になります。

**(西山 康巳 委員)**

ありがとうございました。せっかく興味関心というか参加したいという意気込みで子どもたちがたくさん参加してくれるという状況の中で、一人一人に十分に指導が行き渡らないというふうなことになるともったいないなということがありますので、そういったところへの配慮も一つ考慮してもらえばなというふうに感じます。

あとは、文化部の活動の方ですけれども、今実際に活動しているところを拝見しましたが、今日は数名の十分な人数が参加してやっているようですが、例えばこれまでの合同部活動の様子を見ると、4名であるとか小人数の参加希望ということもあるようです。

これは、こちらの方で実施内容をセットしてそれに対して募集をかけているようですが、希望者が少ない状況とか、そういった場合はどうなるのかとかですね。それから実施内容についても生徒の方の希望を取り入れるということが可能なのかどうかをお伺いしたいと思います。

**(事務局)**

生徒数が実際に非常に少ないとということで、状況に応じて、場合によっては参加数が少ない場合には取りやめ中止になることも、今後あり得るのかなと感じております。ただ、現時点で4、5名でも実際にこのような活動を継続しておりますので、できる限り今後も続けていきたいと思っております。

また、生徒の希望につきましては、現段階ではそのような形でアンケートを取るということは考えておりませんでしたが状況によって、そういったアンケートの実施ということも検討していかなければいけないのかなと感じております。

**(事務局)**

付け足しますが、やはり周知には課題があると思っておりませんので、もっと子どもたちが参加できるための周知の仕方などは考えていかなきやならないなと思っておりました。

この間、実証事業の方ですけど、書道を見に行きましたら、1名の生徒が参加でした。ただ書道ですので、本当にマンツーマンで先生から教えていただけるような状況があったのですけども、やっぱりもったいないなと思って見ていましたので、やっぱり参加者を増やす、子どもたちが参加できるような状況を工夫しながら考えていかなきやならないなと思っています。ただ、やはり人数は安田コーディネーターの方で文化系部活動の方は人数の予想をしながら内容を作っている感がありますので、そのところも予想はしているのですけども、やはり子どもたちが、一人でも二人でも活動ができるような状況を工夫しながら考えていくべきだと思っております。以上です。

**(西山 康巳 委員)**

ありがとうございました。せっかく良い活動内容を準備して実施しているようなので、是非多くの子どもたちが参加できるような、周知の仕方や声掛けを進めてもらえばと思っています。よろしくお願いします。

(熊谷 雄一 市長)

はい、ありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。

[なし]

それでは福井委員、西山委員の御発言がございましたが、次に「中学校部活動の地域展開」をテーマとした、令和7年度教育委員会視察研修について、事務局から報告をお願いいたします。

## 議題(2)令和7年度教育委員会視察研修報告

(山田 指導主事

資料に基づき説明)

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございました。それでは次に、教育委員の皆様は視察研修に参加されたと伺っておりますが、上尾市と板橋区の事例を視察しての御感想、御意見等をお一人ずつお伺いしたいと思います。それでは、まずは西山委員からお願ひいたします。

(西山 康巳 委員)

はい。今回は既に実施している自治体の視察研修をさせていただきまして、大変勉強になりました。私も学校に勤めていた時に部活動も担当しておりましたが、学校部活動が当時は中心でしたから、それを地域に移行・展開していくというイメージがなかなかつかないでいたのですけれども、他の地区の取組を見て、なるほど、こういう形でスライドというか移行させていけばいいのだなと勉強になりました。

上尾市の場合は、特に大きな特色は運営主体となっている「サンワエナジークラブ」に業務委託をしているというところですね。そこに行政側からすれば、一つラインをつけておけば、後は運営主体の「サンワエナジークラブ」の方でいろいろ手配をして、多くの指導者を確保しながら、たくさんの種目について地域で展開できているということが、非常に大きな特色だなと感じて拝見しました。

この「サンワエナジークラブ」の代表の方は、元々はスポーツ関係商品の販売などをしている方なので、多くの種目の人たちとのつながりがあるということで、資料にもあるように、たくさんの種目を統括することができているということになるかと思います。

さらに、その「サンワエナジークラブ」の周りには、大きな企業、いろんな商店がバックアップしているというふうなところもありまして、そういった統括の核となる部分を置いて展開していくというすばらしい例だなと思って拝見しました。

そのことによって、例えば小学校から中学校への連携もできますし、資料にもありましたプロバレー ボールチームとの連携ということで、プロチームとの連携もできているのだなと感じました。

続いて板橋区の方ですが、板橋区では行政が主に管理運営を行っている板橋地域クラブというものを展開している。ただ普通の学校にはなかなかないような特色ある活動の展開ですね、eスポーツであるとか、ロボットであるとか、サイエンスクラブなどをそれぞれの団体に委託して展開

をしているところが特徴的なところかと感じました。ただ、軟式野球については直営で行っているというところで、これは非常に予算が大きくかかるものだなと思って、この辺の難しさというところも感じたところです。

予算の部分であるとか、指導者の確保であるとかが、どの地域でも課題になっているところだろうなと感じて、勉強させてもらってきました。

あと、いろいろな工夫、細かなところなどですね、保護者への周知の仕方であるとか、それから参加費、費用等の回収であるとか、そういったことのアプリケーションを活用した工夫というところは、それぞれのところで見られているところで、今後そういったところも参考にしていくのではないかなと感じました。形態は違っても、それぞれの自治体では、当市と同じような課題も持っているし、それから今後の展開というところも、これから注目してですね、取り入れられるところは取り入れながら、本市でも進めていければいいのかなと感じて、勉強してきました。ありがとうございました。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございました。それでは次に、小澤委員お願ひいたします。

(小澤 直子 委員)

はい。感想を述べさせていただきたいと思っております。上尾市と板橋区で共通して感じたことは部活動が学校教育としての部活動から、社会教育の生涯学習の活動であることへ位置づけられているのだとよくわかりました。それぞれの活動で子どもたちがとても楽しく生き生きと活動に取り組む様子も見させていただきました。

上尾地域クラブに関しては「多種目」「多志向」「インクルーシブ」をキーワードに挙げて、誰もが参加できる体制づくりを目指していました。スポーツも文化活動も非常にたくさんの豊富なメニューがございましたし、インクルーシブということで特別な配慮が必要な生徒へもサポート体制もしっかりと整えられていました。

上尾地域クラブのPR動画を拝見しましたが、そこでは肯定的な感想が出されていて、生徒からは、八戸市の合同部活動と同じで、専門的でなかなか中学校では学ばないことを学べるということや、他の中学校の友達と交流できて楽しいということ、保護者の方からの感想としては、他のクラブや習い事に比べると利用料が非常にリーズナブルですと、それから拠点がたくさんあるので送迎や移動にそんなに心配がないとの感想が聞かれておりました。上尾地域クラブの一番の特徴は、業務委託をされた統括コーディネーターがいるということ、この存在が大きいところでした。

利用申込みや保険加入、集金、備品管理や会場設定、指導者の募集や決定、研修、スポンサーの募集など様々な業務を一括して統括コーディネーターがされているということで、市の担当者の業務軽減にもつながっておりますし、また市の担当者と統括コーディネーターとの関係性が非常に良いということを感じさせていただきました。

上尾市の視察をさせていただきまして、誰もが参加できるためのことを十分に考慮された利用料の設定や必要な支援が、これからの八戸でも考えていいなと思いましたし、なかなか

指導者の確保や会場設定の諸問題がありますが、拠点はたくさんあったほうがいいなと思いましたので、コミュニティスクールや保護者を巻き込みながら、地域の力を借りながら拠点が増えていければいいなと感じました。

次に板橋地域クラブについてですが、学校の部活動に変わる新しい活動スタイルが重視されていて、まずは子どもたちがやりたいことを主体的に考えて自己決定できることを目指したもののが板橋地域クラブだと説明されておりました。

なぜ今、部活動改革が必要なのかという意義に関しては、少子化や教員の負担軽減ということもありますが、あくまでも子どもが一番、子どもたちのより良い成長を目指すためだとのねらいが明確に強調されていて感銘を受けました。板橋区の活動意義、子どもたちが生き生きと活動する姿や指導者にとってのやりがいや魅力をしっかりと記載した広報誌があり、PRされていて非常に活気を感じました。

先ほど周知という話がありましたが、八戸市でもどんどん楽しい活動や、ねらいや目的をPRしていなければありがたいなと思いました。

上尾市、板橋区、八戸市も誰もが参加できる体制づくり、誰もが楽しめる部活動だというところでは合同部活動、国の実証事業が始まりましたけど、合同部活動のような専門的指導によって技術を磨いていきたいという子どもの願いとともに、国の実証事業のようにいろんなものをやってみたい・経験したいというねらい、この二つはねらいや目的も違ってくると思いますので、ねらいは違うとしても誰もが楽しめる部活動、レベルに合わせた指導やどちらの思いも両立できる指導内容の充実につながればいいなと感じました。

今回は地域展開というところで、イメージが湧かずに行きましたが、視察をさせていただいたことで具体的にいろいろ勉強させていただけて大変感謝しております。ありがとうございました。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございます。それでは次に、久保委員お願ひいたします。

(久保 千恵子 委員)

はい、今回教育委員になって初めての視察で、事務局の皆さん大変ありがとうございました。感謝申し上げます。

上尾市の視察から感想述べさせていただきます。西山委員の話と重複しますが「サンワエナジークラブ」という総合型地域クラブが上尾市の教育委員会の委託先となり統括コーディネートして組織を作っているものでした。「サンワエナジークラブ」のような地域展開の責任をもって構築していくことに手を挙げていただきて引き受けてくれたこと、代表の方の広い人脈やネットワークによって立ち上げられたという印象を受けました。クラブチームだけでなく、卓球、剣道協会なども参加しているようですので、想像ですが、隅々まで声をかけた努力の結晶が今の形になっているのだと感じました。

上尾市の地域展開を成功させようという「サンワエナジークラブ」のような存在が不可欠であると感じています。ただ、上尾地域クラブの9ページにあります活動一覧からですが、私の視点ですが19種目が用意されていて、拠点が1拠点や2拠点で受入人数が15~80名と参加人数が限ら

れていることと、拠点の数が少ないので送迎ができない保護者さんがいる場合、子どもたちが参加したくてもできない状況があるのかなと思いました。上尾市の人口規模が八戸市と同規模ということと、上尾市の中学生5,300名、全部の生徒を引き受けることをできない前提に進めているのかなと思いました。

次に板橋区ですが、区の教育委員会が運営している団体の地域クラブであると感じました。教育委員会の会議で以前広報誌をいただいて、その中に板橋区の教育委員会の地域展開について載っていました、国の提言のガイドラインでは地域移行の主な担い手としては、民間の地域クラブ等を想定していると記載されていました。板橋区は、22校9,400人の生徒が、現在活動している地域クラブに受け入れてくれることは現実的ではないということで、行政による地域クラブに取り組んだと記載されていました。地域柄、板橋区は民間クラブがたくさんあると思いますが、特に野球に関しては行政主導としたところに自治体の気概を感じられました。運営費に関しても1億円を超える予算を組んでいるところも特徴的だと思いました。また、中学校の部活動の地域展開や、教職員の働き方改革にとらわれずに、第3の居場所だったり生涯スポーツの推進だったりを見据えているところも魅力を感じました。以上が板橋区の感想となります。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございます。それでは福井委員お願ひいたします。

(福井 武久 委員)

はい。印象に残った言葉がありまして、確かに上尾市の教育長さんだと思ったのですが、上尾市の人口は八戸市とほとんど同じだと。ただ面積は1／7だという話があったと思います。板橋区に関しては人口が2.5～3倍、面積は1／10だと。面積が少ないということは集約できるということですね。また、中学校数が上尾市は12校、板橋区は22校で、八戸市はもう少し多いですね。ということは、八戸市は小規模校が多いと。このような環境を考えると、八戸市は両市と同じようなことはたぶんできないと感じています。

今回視察して、アプリケーションの活用とか参考になることがあったと思います。検討していただいているとは思いますが、同じようなことはできないなと私は感じています。ましてや上尾市や板橋区は先進的なことはしていますが、いまだに足踏み状態が続いている感じになっているので、これからも注視しながら、それ以外の八戸に近い地域の状況も鑑み検討しながら八戸の今後の在り方を考えるべきと個人的に思いました。以上です。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございます。

続きまして令和7年度教育委員会視察研修に関わる報告につきまして、今までの御意見も踏まえながら教育長からもお願ひいたします。

**(齋藤 信哉 教育長)**

私は、視察は事情があつて行けなくて、いろいろ話を聞いて申し上げたいのは、今後、地域移行・地域展開が進むにつれて、運営母体や主体をどこに置くかが大きな課題になると思います。板橋区、上尾市の取組は参考になりますが、これを当市に当てはめたときに、なかなかこうはいかないだろうというのが率直な思いです。むつ市の「むつ☆かつ」は、教育委員会が主体になって、その教育委員会の中に地域移行・展開の担当課を設置しているということを聞いています。

当市は既に民間のクラブチームがあつて、そこで独自に子どもたちを募集して育成する。そういう組織・仕組みができています。種目によって様々ですが、サッカー・バスケは既に民間のクラブチームがスタートしている。

二つ目の取組としては各競技団体が主になって合同の練習をしていると。たとえばスピードスケートは競技団体が音頭をとつて活動していると。残るはこれまで学校主体でやっていた部活動がまだ手付かずの状態で、合同部活動ということでまだ試行的にやっているわけですが、学校主体でやっていた活動を、これからどこが運営母体となるのか、そこが大きな課題ではないかと思います。もちろん、地域展開ですから学校主体になるのではなく、教育委員会の中でそれを運営するグループや課を設置するとなると、機構改革等を含めて大々的にやらなければなかなか難しいであろうと、大きな課題ではないかと考えております。

それに伴つて、後ほど出でますが運営母体を教育委員会の中に置くとなると、受益者負担を基本としつつも、それぞれの活動に何かしらの支援が必要になってくるだろうと。その時に既に民間のクラブチームが動いているのはどうするのか、各連盟競技団体が動いているところはどうするのか、学校から離れた部活動はどうするのか、と一律揃えることではないと思っています。これから市の検討協議会等で検討していただきて、お話しいただきながら、また進めていければいいのかなと思っていました。私からは以上です。

**(熊谷 雄一 市長)**

ありがとうございました。先ほどの各委員の各報告・御意見を踏まえて私からも一言申し上げたいと思いますが、まずは、大変充実した視察だったなど感想を率直に持ちました。一方で「サンワエナジークラブ」の存在であるとか、統括コーディネーターの存在は非常によろしい視察でありましたけども、福井委員からも御発言がありましたように、同じようなことはできないだろうと。教育長からもありましたが、運営母体は、主体はどうするのかと考えた時になかなか同じようなことは難しいかと。今後は、八戸市に近い現状の自治体の実施状況等情報収集に努めるとともに、八戸市の実績・実情にあつた地域展開を進めていくようお願い申し上げます。また、八戸の実情にあう地域展開はどのような方法が適策なのか見極めることが重要だと考えておりますので、今後とも御留意の上推進していただきますようお願い申し上げます。私からは以上です。

さて、ここまででは「中学校部活動の地域展開」について、当市の現状を伺うとともに、実際の活動を拝見し、また、視察研修の報告を受けました。次に当市における今後の展望について、事務局より説明をお願いします。

## 議題(3)八戸市における「中学校部活動の地域展開」の今後の展望

(佐藤 学校教育課長

資料に基づき説明)

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明を受けて御意見、御質問等伺いたいと思います。それでは西山委員からお願ひいたします。

(西山 康巳 委員)

御説明ありがとうございました。学校に通う子どもたちが、希望する部活動ができるというのが一番望まれるところだと考えます。現在は学校で行われている部活動についても、学校に希望する部活動がないということで、他の学校へ転校するというケースもあります。今後そういった活動が地域に転換されると、さらに子どもたちが参加しにくくなるというケースが出てくるのではないかと感じています。できるだけハードルを低く、子どもたちが希望する、子どもたちの要望に応える体制づくりができていけばよいのかなと感じていました。

今までの話にも出てきたように、実施場所の確保であるとか、それに伴う保護者の送迎に関する問題であるとか、かかる経費に関する問題であるとか、そういうことが今後発生してくると思いますが、何とか解消され、子どもたちが希望する活動ができるようになってくれればありがたいなと感じます。

さらに、そういう問題解決のためには、指導者の確保が必要であると思います。運営主体の主がどこになるのかという問題が出てくるかと思いますので、さらに他市等の取組を参考にしながら、八戸のかたちを作り上げていただければと思います。

また、過渡期においては、学校の部活動との連携も考えていかなければならぬと思います。先の問題になるかもしれません、各種大会に参加する可否といいますか、子どもたちがクラブの試合に参加するときに、学校はどう捉えて対応するか。これまでもありましたが、欠席にするか、出席しなくてもいい日にカウントするなど、たくさんのケースが出てくるのではないかと思います。

それから学校行事との関わりですよね。学校行事に参加したいけれども、そこでクラブの試合が入っていてどうしたらいいかとか。それから中体連との関係ですね。今まで中体連の大会を学校行事に設定していたところが多かったと思いますが、今後地域に展開されてバラバラになった時に、学校行事として扱っていくことが果たしてどうなのか。そういう課題も出てくるとは思いますが、我々も知恵を絞り合って、何とか良い形に落ち着けていければいいかなと考えていました。良い地域展開できればいいかなと考えております。ありがとうございました。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございました。続きまして小澤委員お願ひいたします。

**(小澤 直子 委員)**

いろいろ御説明いただきましてありがとうございました。部活動の地域展開をテーマとした今日の会議ではありましたが、今お話を聞きながらふと考えたのは、私たちの時代には、当時、昔は部活動に必ず入らなければいけない時代でありましたので、いろいろな選択肢の中で自分になんとかやってみたいものなど、何かしらの部活動に入るってことはありましたが、今の時代において、学校の様々な部活動に入る選択肢があるお子さんはいろいろな方向性がありますけれども、今の少子化の中、なかなか各中学校では成り立たない部活というものもありますし、子どもたち自身に選択肢が少なく、どの部活動にも所属をしていないお子さんがいるっていうことも、ふと頭に浮かんできました。そのような、なかなか選択肢がなく帰宅部と言われるお子さんたちが、地域展開される部活動に何か魅力を感じて、何か一つやってみよう、何か選んでみようって、楽しみを持って自分で選ぶ選択肢がいっぱいあればいいなと思って考えておりました。

今日の午前中に、海外派遣交流事業における中学生がアメリカの訪問をしたという大変すばらしい研修の報告を受けました。そこでは中学生の子たちが、本当に自分たちが、実際にアメリカに行って感じたことを報告しており、アメリカの学生と比べて自分たちと何が違うのかっていうところでは、アメリカの学生は主体的に動いているというところを、すごくいろいろな子どもたちが言っていました。自分で授業を選択して、給食も自分で選べる、食べる場所も外でランチができる、日本とはまた違う教育体制の中で、主体的というところがすごく違うと感じていたようです。

今の子どもたちが、何か一つでも自分で選んで、選択肢を持って、主体的に考えて自分の道を切り開いていけるってことが、とても今の子どもたちに重要なことだと思います。そういう面では、子どもたちみんなが、誰もが参加できる体制づくりというところを重ねてお願いしたいと思っておりますし、魅力あるたくさんの活動を考えていただければ本当にありがたいなと思わせていただきました。私も一市民として何かそういったところを力になれるように考えてまいりたいと思います。以上です。

**(熊谷 雄一 市長)**

ありがとうございました。続きまして久保委員お願いいたします。

**(久保 千恵子 委員)**

御説明ありがとうございました。この地域展開を1年、夏ぐらいから視察をして考えてきましたが、長年学校部活動という形でやってきたものを大きく変貌するものなので、なかなか難しい課題だなと思って考えていました。

まず一番に考えなければならないのは、子どもたちが地域展開によって不利益を被ることにならないことが一番だと思っています。私も今、小学5年生の子がいて、地域展開は直接関わることになると思っています。これまで先生方の御尽力で、自分の学校で身近にスポーツとか文化活動に触れる環境がありました。先生方も授業終わってからの部活動なので、本当にありがたいなと感じていました。地域展開、地域移行することによって、子どもたちの活動の場所が減ったり、保護者の負担であったり、今までの部活動に比べて費用がかさばるようなことになってしま

うなど、外的な要因によって部活動の場が減ってしまわないことが保護者としても希望するところです。通いやすくて、送迎しやすい、一番は学校にあって徒歩で通えるような地域クラブが、市の多くの場所で展開されていけばいいなということを望みます。

あと6年後の、令和13年、休日のみ全部部活動において地域展開するという目標は掲げておりますが、子どもたちの参加の機会が奪われないように、仮に一部の部活動が残ったとしても子どもたちの不利益にならないように、達成できないのであればやむを得ないことだなっていう考えも必要かなと思っていました。

また、先生方の働き方改革としては少し抵触する感じもありますが、小学校とか中学校の先生方でこの地域クラブの運営指導に参加したいという方がいれば、積極的に協力していただいて、指導者として、地域の一員として活躍していただければありがたいなと思っています。休日は、学校の先生という立場ではなくて、その場所に住んでいる地域の一住民として活動してもらえば地域クラブの発展にもつながっていくのかなと思いました。最終ゴールというか、コミュニティの活性化、市の活性化にもつながるのかなと思っていました。以上です。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございます。それでは福井委員お願ひいたします。

(福井 武久 委員)

これまでの部活動は学校でやって、学校の先生がやるので保護者は多分安心だったと思います。これからは一部外部に出て、全然教育的経験のない、そういう勉強をしていなかった指導者の方に教わることになるかもしれない、保護者の方は結構心配な方もいるのではないかと危惧しております。

しかし、先ほど美術の地域クラブ活動を視察しましたら、子どもたちは非常に生き生きとしているというか、ほとんど我々を無視しながら、一心不乱に活動していましたので、子どもたちにとっては良い活動ではないかとも思っておりました。

いずれにしましても、何か新しいことをやると教育委員会の皆様も非常に大変だと思います。是非、市長部局や地域の方々の御支援を得ながら、お互いに役割等を分散しながら、より良い方向に進んでいただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございます。その他、本日の会議全体を通じて御意見、あるいは御質問等がございましたら、それぞれ御発言いただきたいと思います。

いかがでしょうか。西山委員。

(西山 康巳 委員)

先ほど、話の中で出した中体連の夏季大会、秋季大会、冬季大会の参加の仕方について学校としてどう捉えるようになっていくのかなと。現時点での目途があつたら教えていただきたいです。

**(事務局)**

現段階では、休日の部活動の地域展開というところが八戸市の方で進めている内容になりますので、中体連の大会への参加となるとまだ現実的な話にはならないと思っています。

追々、平日の方も地域展開していったときに、中体連の大会に参加できる部活動の受け皿になる団体になっていくかどうかというところが大事になってくると思います。現段階ではまだそこまで考えておりませんでした。

**(西山 康巳 委員)**

わかりました。ありがとうございます。

**(熊谷 雄一 市長)**

よろしいですか。久保委員いかがですか。

**(久保 千恵子 委員)**

情報発信の話が前半に出ましたが、紙媒体で中学生に渡しても食いつかない感じがしまして、今は一人一台携帯を持っている時代なので、インスタなどのSNSを使って、動画配信は本人や保護者の許可を得ないといけないかもしれません、今日の美術の活動だったり、リアルな楽しく活動している姿だったりを見せるのが一番いいのかなと思いました。もし可能であればよろしくお願いします。以上です。

**(熊谷 雄一 市長)**

何かお答えございますか。

**(事務局)**

御意見ありがとうございます。まず実証事業での内容については、校長先生方を通して校長会から発信して、totoruなどで保護者に発信したり、学校の後ろの黒板に実証事業のポスターを貼ってくださったりしている学校が結構ありました。しかし、まだまだこれから周知が必要だなと思っています。また、インスタなどのSNSの案をいただいてありがたいと思っていました。

今回アプリを使うということについて、視察後に担当と話をして、アプリの存在って大きいなと、ICTってすごく効果があることだと思います。ただお金がかかると思いますので、それについては検討していかなければならぬなと思っています。今はICTですとかSNS、いろいろなものを使っていくということは非常に発信力がありますので、検討していかなければいけないと思っています。

**(事務局)**

今回課題だったと思うのが、情報の発信の仕方が今回の実証事業を始めるに当たって不足していたと感じています。今回、発信をする前に保護者の同意をどのようにして確認するかというところで、どうしても保護者だけにtotoruを通じてのチラシと登録規約の周知をするということに

なってしまい、子どもたちの方に実際に話が伝わっていないと、いろいろなところで聞くことができました。その点を今後、周知の仕方を検討してSNS等の活用も非常に効果的だと思っておりますので、課内でも話をして検討したいと思っています。以上です。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございます。よろしいですか。福井委員いかがでしょうか。

(福井 武久 委員)

今のSNSの件で思ったのですが、TikTokはダメなのでしょうか。今朝、深大寺の辺りが人気で若者が集中して大変なことになっているというニュースを見ました。先ほどの資料にあった流し踊りをやっている姿なんか、それに載ったら人気になるのではないかなどと思いますけども。顔が映りたくないとか、いろいろ問題あると思いますので、その辺クリアできたら、SNSを検討するに当たり、そちらも可能であれば検討をよろしくお願ひします。以上です。

(熊谷 雄一 市長)

はい。御要望ということでおよろしいですか。

それでは、本日の議論を踏まえまして、八戸市における中学校部活動の地域展開の現状と今後につきまして、教育長からお願ひいたします。

(齋藤 信哉 教育長)

はい。それでは最後に少しお話しさせてください。

中学校部活動の地域展開につきましては、何年間か取り組んできましたけれども、ある方面では教職員の働き方改革の一つの手段ということで光が当たっているようですけれども、確かにその一面もあるうかと思います。ただ、それだけではないということだけは大事なところではないのかなと思います。要するに、子どもたちの可能性を広げる視点で、我々大人が検討していくかなければならぬと。ここがすごく大事ではないかなと思っていました。

これまで合同部活動、それから11月から国の実証事業を見ていまして、改めて感じたことは、例えばスポーツに特化して話しますと、やりたい種目・競技があるけれども、なかなか学校では開設されなくてできなかった。そういう子もたちが、今の国の実証事業によって、自由に選択できるようになった、いわゆる選択肢が広がったということが、まず一つ挙げられると思います。

それから二つ目は、学校現場の状況を見ますと専門的な指導ができる先生方っていうのは少なくなっています。そういうところを見ると、合同部活動にしろ、国の実証事業にしろ、やはり専門家が指導してくれる。より高いレベルの内容を教えてくれる。そういう部分が、子どもたちにとって大変満足感が得られているのではないかと思います。

そして3点目は、これまで学校の中で活動していたものが、学校の枠を超えて、他の学校の子どもたちと交流しながらできる。これは大変大きなものだったなと感じます。そういうことが、これまでの合同部活動、国の実証事業を進める中で感じたことです。これは、これからも大事に

していかなければならないことの一つかなと思っていました。

これからよいよ、令和13年を目指して当市の地域移行、地域展開の取組をさらに加速させていくわけですけれども、その中で大事なことは3点これからやっていかなければならないと考えています。

まず1点目は人。単純に言えば人ということになりますけれども、いわゆる指導者の確保。これをこれからやっていかなければならぬと思います。担当の者とも話をしていますが、八戸版の人材バンクを作ろうと、今目標を掲げております。我々、可能な限り指導者を確保するために情報の収集に努めていますが、意外とまだまだ我々が知らない人材がたくさんいるということがわかりました。そういう方を含めてお手伝い願えるような方々について、人材バンクを作っていくたいということを考えていました。

それから二つ目のキーポイントは、物です。物っていうのは先ほどからいくつか出てきました、活動場所をどうするか。基本的には、公共、公営の学校の施設を利用する、あるいは市の施設を利用する。ただそれをどういうふうに、それぞれの競技で割り当ててやっていくかっていうのはすごくこれから大きな課題になると思います。競技種目だけでも相当な数がありますので。そういう部分をこれからどうするかを検討していかなければならぬ。一つの方法としては、ブロックごとに分けて、少し割り当てをするのも一つの手かなと考えていました。

そして最後、三つ目は経費等の負担をどうするか。先ほども少し話しましたけれども、参加する子どもたちの保護者負担というのは基本としながら、中には経済的な事情で、参加したくても参加できない子どもがいる、もしそういうことがあったとしたら、そういう子どもたちにも行政として手を差し伸べてあげなければいけないだろうなと思っていました。あるいは、全体的に保護者負担を軽減するための何かしらの補助というのも必要かなと。今お渡しした資料が最新の資料です。国も地域移行に伴って、新基金を検討している、そういう情報が今入ってきております。中身についてはまだ全然わからないわけですけれども、それぞれの都道府県の方にこの基金を置いて、各自治体でそれを補助として使えるような、そういう仕組みになると、文科省の方でも検討し始めたといった情報があります。今後、具体的なことを見ながら、国の制度等も活用しながら、当市の場合、活用できるのであれば、どんどん活用しながら財源確保にもつなげていければいいかなと考えていました。国の方もまだまだ揺れ動いている部分があって、我々も国の動きを注視しながら、これからやっていかなければならぬだろうと考えておりました。

いずれにしても、最初にお話しましたとおり、子どもたちの目線でもって、今我々大人がどういうサポートや支援をしていけるか、これからも大事にしながら議論を重ねていきたいと考えおりました。私からは以上です。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございました。それでは最後に私の方からも発言をさせていただきます。私から申し上げるまでもなく、この地域展開、将来にわたって子どもたちが継続的にスポーツや文化芸術活動に親しむ機会の確保、あるいは拡充が最大の目的であり、地域社会全体で支え合って、子どもたちの多様なニーズに応えられる幅広い活動を保障する必要があるのではないかと考えております。

会議を通して、各委員からそして今教育長からまとめのよう御発言がございましたが、子どもたちが活動をしやすい場所や移動手段、それから保護者負担の在り方、指導者の確保や指導力の向上、部活動の地域展開を推進するまでの組織の充実と、課題が多いということを改めて認識したところであります。

八戸市の地域性、魅力や課題を的確に把握し、先ほど事務局からもお話をございましたが、市長部局のスポーツ振興課、それから文化創造推進課と緊密に連携を図り、そして今教育長から国の新しい制度についての御説明もございましたが、国の動きも注視をしながら、未来につながる持続可能な部活動の地域展開の推進が必要であると考えておりますので、引き続き進めていただきますようお願いを申し上げます。私からは以上であります。

本日予定しておりました議事は以上ですが、最後にその他として皆様から何かございませんでしょうか。よろしいですか。

[なし]

それでは事務局からは報告はありませんでしょうか。

[なし]

他になれば、これをもちまして進行役を終えたいと思います。皆様ありがとうございました。司会を事務局へお返しいたします。

## 閉会

(松橋 広美 次長兼教育総務課長)

皆様、長時間にわたり、貴重な御意見をいただきまして大変ありがとうございます。本日いただいた御意見等は、八戸市の教育行政の更なる充実・発展に活かしてまいります。

それでは、以上を持ちまして、令和7年度八戸市総合教育会議を閉会いたします。

皆様、お疲れ様でした。

(午後4時53分 閉会)